

2023年(令和5年)3月6日(月曜日)



半導体市場見通しとフェローテックHDDの戦略

フェローテックホールディングス(HD)は、半導体市場の鈍化が指摘される中でも、今年度(2023年3月期)は大幅な増収増益と過去最高業績の更新を見込む。賀賢漢代表取締役社長兼グループCEOに、今後の半導体市場見通しや同社の事業戦略を聞いた。

— 米国の対中半導体装置輸出規制(ロジックは14ナノ以下、メモリーはNANDが128層以上、DRAMはハイピッチ18ナノ以下のプロセス

賀賢漢社長兼グループCEOに聞く

スが規制対象)の影響は、

賀社長 半導体市場では、22年8月ごろから在庫調整の動きが始まったが、加えて22年10月以降、米国の対中半導体装置輸出規制の動きが強まっている。

米政府による中国系製造の日本回帰の方針も

工場を建設しても装置が不足している、という状況が発生しており、われわれのような部品企業も影響を受けている。

当社は、サプライチェーン強化策として、22年にはマレーシア新工場建設に着工するとともに、

中国半導体市場の今後の見通しは、

賀社長 中国政府は、米国の対中規制への対策として、規制対象外の

やデータセンター、自動運転などの最先端分野以外の製品が多い。ただし、米政府の今後の政策次第で、市場の回復状況も変わってくる。

私は、中国における半導体製造装置内製化は、3段階で進むと考えている。第1段階として、25年ごろにはメイド・イン・チャイナの半導体の5割くらいを中国系装置で製造できるようになり、第2段階の30年ごろには7~8割に上昇し、35年ごろには、9割方の半導体を中国系装置で製造可能になるとみている。

— 中国の電気自動車(EV)市場や関連するパワー半導体市場の動向は、

先端品は日本生産強化

中国EV市場の伸びに期待

米国人技術者への規制も強化され、そうした技術者は国籍がキャリアの二者選択を余儀なくされるような状況となっている。それらの余波で、米国製半導体製造装置の対中輸

出が遅延した少、半導体の新

打ち出した。これまで中国中心の生産を行っていたが、新規の先端品生産は日本生産を強化する。

賀社長 半導体市場は、23年7~9月ごろからの回復を予想している。当社は中国系半導体企業からの受注も多いが、中国で生産される半導体は、スマートフォン

ガシ半導体やパワー半導体などのプロジェクトに努めている。23年1~3月には、中国政府から半導体装置メーカーに1兆元の補助金が交付され

賀社長 中国のEV市場は、米国の規制対象外であるパワー半導体の育成を強化している。アプリケーションには、太陽光発電、風力発電、車載向けなどのIGBT、MOSFET、高速鉄道、航空機などがある。当社はパワー半導体向けのさまざまな部品を手掛け、グローバルで高シェアを有している。パワー半導体材料も生産している。



賀社長 半導体市場は、23年7~9月ごろからの回復を予想している。当社は中国系半導体企業からの受注も多いが、中国で生産される半導体は、スマートフォン

中国のEV市場は23年

も高い成長が見込まれ、中国EV向けの当社ポテンシャルも大きく伸びるとみている。製品別では、半導体ウエハーなどのディスプレイ向け製品の追加、パワー半導体用のDCB基板やAMB基板、SiCウエハーなどを伸ばしていく。

— 新たに恒温水循環装置「チラー」を発表しました。

賀社長 チラーは熱対策部品「サーモモジュール(ペルチェ素子)」技術を活用した応用製品。3年前に開発に着手し、ようやく商品化した。ペルチェ方式、コンプレッサ方式を合わせ、今後は十数種類の製品をラインアップする。半導体分野のほか、レーザー加工機やマシンングセンターなどの工作機械、および医療分野での冷却用途を想定している。中国市場を皮切りに、将来的にはグローバルで年間200億円の規模の事業に育成したい。